

[27年度] 德育推進フォーラム

平成27年10月31日(土) (於) 佐世保市体育文化館コミュニティセンター

テーマ ~子どもに見せる大人の德育~

意見発表



鹿町中学校 3年 松田 彩那

私は、挨拶運動を毎日行う中で気づいた課題を、「德育推進フォーラム」で述べさせていただきました。学校の校訓に「磨きあえ心」があります。挨拶は、自分からすることで、自分に自信がつきますし、今やっておかないとすぐ身につくものではないと思うからです。

お互いに相手の目を見て挨拶をしあうことで、心が磨かれます。人として、挨拶は一番大事な事だと思ったので、発表させていただきました。



佐世保北高校 2年 平田 智哉

私は、今年の3月、部活動の先輩や同級生とともに、ボランティア活動をするために岩手県の陸前高田市を訪れました。植樹のボランティア活動は想像以上に大変なものでしたが、その中で私は2つのことを感じ取ることができました。

1つは、自分が想像していたよりもはるかに復興は進んでいないということです。実際に見てみないと現実を知ることはできません。だから、同じ日本人として、全員が一度は東北に足を運んでほしいと思いました。

もう1つは、東北の人々の絆の深さです。昔の日本にあったような、強くて暖かみのある人間関係がそこにありました。私たちはこれを見習うべきだと感じました。



広田中学校 2年 佐伯 悠悟

今回、僕は、この「德育フォーラム」で、貴重な発表の機会をいただきました。正直「德育フォーラム」そのものがどんなものなのか、はっきりとはわかりません。でも、「人のために役に立つこと」「人に気持ちよくなつてもらうこと」だと思っています。足が不自由な僕に、何ができるのかはわかりません。でも僕だってきっと人の役に立つことはたくさんあると思っています。今まで、支えてもらうことも多かったけど、これからは僕が友達を支えていくという強い思いを持って生活します。

僕は、本当に、今、幸せです。そんな僕でいられるのは、なんと言っても両親や学校のみんなのおかげです。これからもたくさん迷惑をかけると思うけど、その分一生懸命頑張ることで恩返しをしたいと思います。



佐世保商業高校 2年 小林 由暁

近年、一時の感情に任せて行動する人が増えてきたと言われています。そういう人たちは「ジコチュー」と言われます。私自身、高校に入学するまでは、自分の思うとおりにならないことがあると、すぐにイラッとしていました。

今は便利な世の中になり、昔は出来なかったことができるようになりました。そのため、人はできないことがあると、怒りを感じます。しかし、本当にできることの方が多いのでしょうか。自分で何でもできるのではなく、誰かの協力があってできていることが多いのではないでしょうか。

ディスカッション

佐世保德育推進会議会員 長島 學

広田中2年の佐伯悠悟さんは、自分には身体に障害があり、これまで、厳しくも優しく応援してくれた家族、そして、学校生活で何かと応援してくれた同級生、先生への感謝の気持ちと障害者だからこそ伝えられる先生になる目標を語ってくれた。また、他の3人にも共通することは、表面でない「感謝の心（徳の心）」が伝わってきた。

德育は、「各家庭・学校・地域」の、日々の生活の中で培われ、当たり前のように継続する事が大切であり、子どもたちが、最低でも「人」として善悪の判断ができる道徳（德育）教育を！

佐世保德育推進会議会員 井上 隆三

自分が子どもの頃：両親からだけではなく、祖父・祖母がいつも家にいて、躊躇された。近所の付き合いが今より多く、近所の大人から注意されることも多かった。

現在の子どもたち：素直でまじめ。学校での道徳教育がしっかりできていると感じる。核家族化や労働時間の長さから家族での時間が少ない。外での遊びや、年齢差がある子供どうして遊ぶ事が少なく感じます。

私は、剣道を通して青少年の健全育成に関わっています。礼節は厳しく指導している。子どもたちが向上心を持ち、両親への感謝の気持ちを忘れず、誠実で強い精神で成長してくれるよう努力していきたい。自分自身も子供たちと一緒に成長しなければと思っている。

佐世保德育推進会議会員 中倉まち子

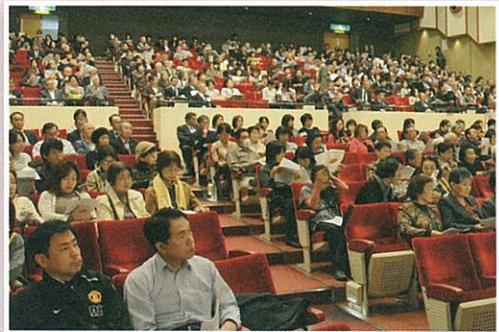
現在の子どもたちは、自立心や人に迷惑をかけないという気持ち生命尊重・人権尊重の心、そして基本的な生活習慣の乱れなどの傾向が指摘されている。その一方で、現代の子どもたちは、豊かな感性や国際性を備えていたり、ボランティア活動へ積極的に参加したり、社会貢献への意欲を持つ子どもたちが多く見られる。4人の子どもたちの意見発表を聞いて、その素晴らしさに感動し、次世代を担う子どもたちに大いに期待できると実感した。今こそ！私たち大人が、親として、大人として、子どもたちに「豊かな心や人間性を養うために」模範を示し、行動で表していくなければならないと思った次第である。



パネルディスカッション

佐世保德育推進会議会員 下釜 豊広

身体が不自由でも自立心と感謝と夢を持っている、あいさつ運動、ボランティア活動、生徒会活動を通して積極的に人と関わっている今日の発表は、社会的包摂やノーマライゼーションという概念を持っていることに感謝と安心をもらつた。現代の子どもは、情報に洗脳され、開き直り、冷め切った様子、携帯電話（スマートフォン）の普及で言葉によるコミュニケーションが不足し、下手になっている傾向もみられる。子どもたちにはきちんと他人と向き合って話せる人に、物も人も大切にできる人に、思いやりと優しさを兼ね備えた人になってもらいたいと思う。まずは大人が、人に関心を持ち、きちんと挨拶をすることからやり直さなければならない。



当日は538名の方々にご参加いただきました。

◆◆まとめ◆◆

佐世保德育推進会議 会長 木村 勝彦

今回のパネルディスカッションは「子どもに見せる大人の德育」をテーマとした。まず、中学生、高校生各2名の方々に德育をめぐる日頃の思いや気付きについて意見発表を行っていただき、ディスカッションではそのような子どもの思いや感じ方を大人の側がどのように受けとめ、応答していくべきかという観点から、4名のパネリストの方々に意見を交えていただいた。いづれのご発表も德育に対する深い思いと問題提起に満ちたものであったと思う。今回のテーマが示しているように、德育は子どもの問題として大人が一方的に教え諭すべきものではなく、大人自身が主体的な問題として捉え、努力していくべきものにほかならない。中高生の意見発表やパネルディスカッションが、まさに道徳を育む行為である德育が社会にとっていかに重要なものであるかを、私たちのすべてが自分自身のこととして考える契機になったのであれば幸いである。



(朝長則男市長あいさつ)



(マナー講座)



(佐世保市歌合唱)

10月31日538名が一同に会して開催された德育推進フォーラム。
参加された皆様からいただいた感想のうち、一部を掲載しております。

意見発表、パネルディスカッションについてお答えください。

- わたしたち大人が変わっていけば、子どもたちも変わっていくということがわかり大変参考になった。
- コーディネーターがうまく進めていたし、4人のパネリストもそれぞれの思いを話し、まとめてくれていた。
- 子どもたちのみずみずしい感性に感動し、すばらしい発表が聞けて良かった。

「德育推進」が広がるためにどのような手立てを取ればいいと思いますか。

- あいさつも德育も家庭から。一人ひとりが德育に関心を持って、身近なことでできることを続けていけたらと思う。
- 今の大人が変わらなければならない。子どもは大人を見ている。相手を認め、理解し、自らを省みることが必要である。
- 保護者を対象とした家庭教育講座を受講する機会を増やすべきである。常識的なしつけが德育の絶対条件である。

本日の「德育推進フォーラム」についての感想をお聞かせください。

- 昔、「してよかったこと」が、今は「絶対にしてはいけないこと」になっている。なぜ、昔は良かったのか。「社会の余裕」、「あそび」があつたからではないか。「徳」を育てるには、失敗も必要で、それを見守る地域・学校・家庭の雰囲気も必要になるのではないか。
- 失礼ながら、形だけのフォーラムなのかと思っていたところがあったが、すばらしいフォーラムでした。参加してとてもよかったです。
- 德育について考えたことはなかったが、今回のフォーラムに参加して、特別なことではなく、素直な心、謙虚な心、感謝の心を持って子どもたちや周囲の人たちと接していくらと思った。